

〔全体の評価講評：学童クラブ〕

令和6年度

《事業所名：四小第1第2学童クラブ》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりの意見や自主性を大切にし、やりたいことを重視して支援しています
	内容	学童クラブは子ども達が自主的に生活し共に遊ぶ場と考え、様々な取り組みをしています。縦割り集団の班活動では、日常生活や行事の取り組みから、異年齢集団ならではの思いやりや尊敬の気持ちを持ち、自主性と協調性を体験することができるように支援しています。室内での生活では、2つある部屋を遊びによって静と動に使い分けており、個も集団も希望する遊びができるように空間を確保しています。「やりたいことリスト」で学童クラブへの希望を把握し、要望が多かった時間配分を自分で考え行動するフリーデイを実現するべく検討しています。
2	タイトル	綿密な年間指導計画に基づき、個人記録と作業療法士の意見も取り入れ支援しています
	内容	法人作成の年間指導計画があり、計画は3学期に夏休みを加えた4期で構成され、ねらいも明確に記されています。養護と教育の項目が分かれ、環境構成、支援員の補助と続き、保護者支援の項目もあります。これに健康・安全・災害・行事の項目が加わっています。年度末には1年間の反省や振り返りを行い、評価として記されます。法人共通の年間計画に地域性や状況が加味され、年度末には改定がなされています。また、日々の子どもの様子が記録された個人記録ノートで職員の情報共有をし、作業療法士のアドバイスも受けて、個々の支援に役立てています。
3	タイトル	安全計画マニュアル類の整備、保護者への注意喚起など安全管理の徹底を図っています
	内容	クラブ運営の基本方針に「事故を未然に防ぐために安全管理を徹底する」としています。安全を確保するためにマニュアル整備を含めた安全点検、子ども・保護者への安全教育、各種の訓練や研修の実施、ヒヤリハットによる再発防止策の徹底の項目を網羅した安全計画を策定し、安全対策に努めています。また、事業継続計画(BCP)および災害対応等のマニュアルの整備を行い、保護者に対しても緊急時における対応を列記した「児童安全のために」の配布による注意喚起を行う等、安全管理への徹底を図っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	マニュアルを活かし確認し合う時間を設け、共有化と業務の標準化の向上が期待されます
	内容	学童クラブ育成指針に基づき、防災災害・BCP・感染症・事故防止・防犯不審者対策など各種マニュアルは整備され、また、部屋が学校の建物に入ったことで、不審者対策や災害などの危機管理も学校と共に新たに考え合わせようとしています。しかし、日々の現場では即時に解決しなければならないことが起こり、その場で指導や伝達が行われ、実際にはマニュアルに沿ってというよりはOJTによる事柄が多くならざるを得ないようです。現場を離れた時間にマニュアルを確認し、共有化を図ることにより、業務の標準化の向上が期待されます。
2	タイトル	個人用の記録ノートの記入項目を整理し、課題の明確化に取り組むことが期待されます
	内容	毎月の職員会議や、毎日の事前打ち合わせと反省会の実施などにより、子ども一人ひとりの状況や最近の様子についても職員間で共有され、丁寧に支援しています。また、個人用の記録ノートを作成し、さらに厚い支援を提供しようとしています。しかし、そのノートに文章として記録することは時間と労力を要し、職員の主観も入ると焦点が定まらなくなりがちです。何のための記録付けかを職員間で話し合い、目的別に項目を決め整理し、記入しやすくすることによって、業務の効率化にもつながり課題が明確になる取り組みが期待されます。
3	タイトル	中核的な統括の立場を設けて人材配置を行うことへの取り組みが期待されます
	内容	法人が運営する学童クラブは数を増して9か所を数えるようになりました。高齢者施設に例えるならば、同一地域内で離れた位置にある9つのユニットを運営している形です。各クラブには責任者としての主任がそれぞれのクラブ運営に専念していて、運営主体の学童クラブ全般を取りまとめているのは本部役員1名という配置です。学童クラブの独自性を発揮しながら、相互の連携を保つためにも、現場に精通し、各クラブ状況の把握、本部と各クラブ間、各クラブ相互間の連携を図る統括の立場を設け、人材の配置に取り組むことが期待されます。